

ロコモティブシンドロームの概念と保健指導に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 運動器の障害による移動機能の低下した状態を指し、そのリスクの低減のために、18歳から64歳には、3メッツ以上の強度の身体活動を毎日60分、また、「今よりプラス10分、身体を動かすこと」を心掛けるよう指導する。
2. 運動器や神経系の障害のため要介護1以上が認定された状態を指し、該当者には介護保険で機能訓練を受けることを勧める。
3. 呼吸器の障害による運動能力の低下した状態を指し、「緩やかな上り坂を歩くときに息切れがある」、「平坦な道を100m歩くと息切れのために立ち止まる」などのチェック項目からなる修正MRC（mMRC）質問票によってリスクの程度を確認するよう指導する。
4. メタボリックシンドローム、がんなどの生活習慣病全般を指す新しい疾患概念であり、罹患リスクのある18歳から64歳には週に23メッツの身体活動を勧める。
5. 過食が原因で発生する脂質異常の状態を指す新しい疾患概念であり、身体活動レベルIの40歳の女性には1800kcal/日のエネルギー摂取を勧める。

健やか親子21（第2次）の中間評価に関する次の記述のうち妥当なのはどれか。

1. 発達障害に関する情報や、発達障害という言葉の認知は向上していると考えられる一方で、発達障害に関する正しい理解は十分に進んでいるとは言えない現状がある。
2. 十代の性に関する課題について、指標の対象としている性器クラミジア、淋菌感染症、尖圭コンジローマ、性器ヘルペスの罹患率がいずれも悪化しており、今後注視が必要である。
3. 朝食を欠食する子どもの割合は、小学生、中学生いずれも5%未満となり、中間評価目標を達成したことから、最終評価目標の値を小学生、中学生ともに2.5%に変更する。
4. 積極的に育児をしている父親の割合は、「悪くなっている」と評価せざるを得ない状況にあり、父親自身の育児への参加に関する意識を向上させる取組がさらに必要である。
5. 十代の飲酒率は、中間評価目標として掲げられていた「中学3年2%未満、高校3年8%未満」を達成し、今後もこの水準を維持していくことが重要である。